

月刊 G S I マップニュース

第73号 4ページ

平成10年10月25日 発行

あて先

様

通信



トピックス

■北海道、東海でもRTK-GPS測位の公開実験を開始

国土地理院および郵政省電気通信局は、RTK-GPS（リアル・タイム・キネマティック-GPS）実験推進協議会と共同で電子基準点を利用したRTK-GPS測位に関する公開実験を10月から北海道、東海地域で開始しました。

RTK-GPS測位とは、電子基準点（GPS基準局）で得られたデータを、デジタルMCA（マルチ・チャンネル・アクセス）無線を使って利用者側（GPS移動局）に送信することにより、利用者の位置をリアルタイムで高精度に求める測位技術です。この測位技術は、これまでに関東、関西地域で公開実験を実施してきており、測量、土木工事、カーナビゲーションなどの分野で利用が可能になってきました。

今回、耕作機械の自動運転や高速道路などの大規模工事のほか、今までと異なる分野での利用の可能性を探るため、実験地域を北海道と東海にも広げました。公開実験に際し、北海道地域は10月15日、東海地域は10月19日に説明会を行い、GIS、ナビゲーションなどの分野も含め約200名の参加がありました。

■GPS固定点データの提供を開始

国土地理院では、10月5日からGPS固定点の位相データを、インターネットにより一般公開することになりました。GPS固定点とは、市街地地域における地籍調査の促進などを図るため平成8年度から国土地理院が設置しているGPS連続観測点の呼称です。昨年までに25点設置し、今年度はさらに20点を新設し、今後も全国各地に設置していく予定です。

GPS固定点で観測されるデータ（位相データなど）を利用することにより、測量の高精度・効率化が図られるため、インターネットを通じて公開することになりました。

主な記事

新刊情報— 平成10年12月1日、13日、平成11年1月1日

新刊地図案内 2～4

つくば便り— 人工衛星から見た長江・松花江流域の水域の変化 4

IGGOS国際シンポジウム参加 4

■岩手山災害対策GIS用データを整備

国土地理院は、岩手山についての災害対策に関する地理的情報を統合したGIS用のデータを整備しました。これは、GISの基盤となる地理情報を数値化するとともに、主題情報となる災害対策情報も数値化して岩手山災害対策用GISとして整備したものです。

10月13日発表の火山噴火予知連絡会の統一見解によれば、岩手山の火山活動は現在も継続しており長期化する可能性もあることから、活動の推移を注意深く見守っていく必要があります。18日には岩手山噴火対策防災訓練も実施されています。

現在、国や県などの災害対策関係機関では様々な地図を用いて岩手山の災害対策情報を交換しています。しかし、紙を媒体とした地図による情報交換では、地理的關係が把握しづらいことに加え、刻々と変化する情報には対応が困難です。この問題を解決するため、国土地理院では、情報の数値化を行い、GIS上での検索や重ね合わせを可能にしました。

■全国でGIS普及セミナーを開催

国土地理院は、主に地方公共団体を対象としたGIS普及セミナーを、10月20日に広島市、23日には仙台市で開催し、両セミナーとも100名を越す参加者がありました。今後、12月中旬にかけて札幌市、前橋市、野々市町（石川県）、静岡市、大阪市、高松市、熊本市で開催します。

GISに対する地方公共団体の関心が高まる中、地方公共団体などからの問い合わせが増加しています。そのため、GISを円滑に進めるには正しい理解が重要であるとして、今回のセミナーを企画しました。

セミナーでは、地元の大学で地域防災、都市計画、環境問題などにGISを応用している学識経験者および先駆的に構築・運用している地方公共団体による地域に密着した事例が紹介される予定です。詳細につきましては、当院ホームページをご覧ください。

新刊情報

地図の価格と購入方法

〔主な地図の価格〕
 1万分1地形図(5色) 450
 2万5千分1地形図 270
 5万分1地形図(4色) 290
 20万分1地勢図 320
 50万分1地方図(4色) 650
 100万分1日本 650
 100万分1国際図 890
 300万分1日本とその周辺 890
 1万分1火山基本図 590
 (円:消費税込み)

〔購入方法〕
 国土地理院刊行の地図を取り扱っている全国の書店等でお買い求め下さい。また、通信販売を利用することもできます。通信販売のお申し込みは下記へ。
 (財)日本地図センター
 〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-9-6
 TEL 03-3485-5414
 国土地理院の刊行地図に関するお問い合わせは下記へ。
 建設省国土地理院企画部
 情報管理課生産管理係
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
 TEL 0298-64-1111
 (内線 3351)

数値地図の価格と購入方法

〔価格:1枚(消費税込み)〕
 FD :6000円
 CD-ROM :7500円
 〔購入方法〕
 数値地図を購入する場合は、下記へ直接お申し込み下さい。また、国土地理院の地図を取り扱っている書店でも取り次いであります。
 (財)日本地図センター
 地図研究所研究第一部
 TEL 03-3485-5418

刊行地図面数
 (平成10年10月1日現在)
 1万分1地形図 284面
 2万5千分1地形図 4,357面
 5万分1地形図 1,291面
 20万分1地勢図 130面

新刊地図案内

平成10年12月1日,13日,
 平成11年1月1日刊行予定

○平成10年12月13日刊行(東海北陸自動車道供用時同時刊行)
 2万5千分1地形図(桎判3色)1面

図名	地図番号	実施年・種別	備考
いちの宮	名古屋 1-3	10年 部分修正	東海北陸自動車道の完成(尾西C〜一宮JCT)

○平成11年1月1日刊行
 2万5千分1地形図(桎判3色)23面

図名	地図番号	実施年・種別	備考
札幌東北部	札幌 10-1	10年 部分修正	「つどーむ」の新設JR札幌線の愛称併記(学園都市線)
白石東南部	福島 5-1	〃	国道349号の改良
藤代	千葉 13-3	〃	境界変更(伊奈町・藤代町)
船越	男鹿 1-2	〃	国道101号の指定
坂町	村上 12-1	〃	境界変更(中条町・黒川村)、国道号の経路変更
塩山	甲府 6-2	〃	国道140号の経路変更、室状ソサの完成
切り石	〃 12-1	〃	国道300号の経路変更
身延	〃 12-2	〃	国道52号パパス及び身延ソサの完成
瀬戸	豊橋 13-4	〃	住居表示による変更、愛知県立大学の新設
百済	名古屋 10-3	〃	国道421号の経路変更、郵便局の移転
朝宮	京都及大阪 3-2	〃	住居表示による変更、ゴルフ場の新設
橋本	和歌山 7-3	〃	南海高野線の複線化
久美	鳥取 2-2,3-1	〃	国道178号パパスの完成
真浦	姫路 8-4	〃	家島港の埋立
加瀬	徳島 5-3	〃	国道482号の指定、民俗資料館の新設
松山南部	松山 2-3	〃	「えひめこどもの城」の新設、伊予鉄道横河原線「久米駅」「梅本駅」の移転
久方	〃 3-1	〃	国道380号の改良
安蔵寺山	山口 2-1	〃	一般道の新設、工場の廃止
徳佐中	〃 6-2	〃	国道489号の指定、法務局の廃止
秋吉台北部	〃 11-3	9年 部分修正	国道490号の指定、温泉の表示、郵便局の移転
戸次本町	大分 6-1	10年 部分修正	国道10号の拡幅
都農	延岡 7-1・3	〃	境界変更(都農町・東郷町)
桜島南部	鹿児島 7-2	〃	国道224号の経路変更

5万分1地形図(桎判4色)19面

図名	地図番号	実施年・種別	備考
上士	帯広 9	9年 編集	
然別	〃 13	〃	
鬼志	枝幸 9・13	〃	
豊富	天塩 2	〃	

(次ページに続く)

(前ページより続く)

登来 尾花 河原 高田 草津	石巻 仙台 長岡 高田 高野	9 9 9・13 10 5	9年修正 " " 9年要部修正 9年修正	国道45号の経路変更、志津川湾の養殖場の表示 国道347号の経路変更、大石田町役場の移転 国道350号の経路変更 北越急行ほくほく線の完成 国道406号の指定、志賀草津道路の無料化JR 吾妻線の駅名変更(長野原草津口駅、川原湯温泉駅) 境界変更(茅野市・原村)、国道52号・361号の 指定、箕輪ダムの完成 東海北陸自動車道の完成 岡山自動車道の完成 岡山自動車道の完成 境界変更(佐川町・日高村)、高知自動車道の 完成、国道439号の経路変更 林道及び篠山トンネルの完成 埋立地の整備、漁港の完成 一般道の拡幅 国道390号の経路変更 底原ダムの完成、ササガートブリッジの完成、 ハナ公園の新設
高遠	甲府	13	"	
八幡 岡山 菅野	岐阜 高梁 " 高知	2 4 7 11	9年要部修正 " " 10年要部修正	
いわ 岩 神	宇和島 中津 福岡	6 14 9	9年修正 " "	
石垣島 石垣島	石垣島 石垣島	1・2・5・6 2・3・6・7	" "	

表の見方

用紙の大きさ

紙判 460×580

菊判 636×939

四六判 788×1091

四六半裁判 520×738

(単位mm)

図名

地図の名称で、その地図中に表示されている地名の中で最も著名なものを採用することが多い。山、湖沼、岬、島などの名称を採用することもある。

地図番号

地図の地球上における位置を示すもので、分類するのに便利のように系統的につけてある。2万5千分1地形図と5万分1地形図の地図番号の中の地名は、その地形図が含まれる20万分1地勢図の図名。

実施年

地図の現地調査を実施した年、若しくは編集を行った年。

種別

[修正]

修正測量の略称で、地図を定期的に全面修正する測量。

[改測]

すでに作成された2万5千分1地形図を新たに作成しなおすこと。

[部分修正]

部分修正測量の略称で、定期修正とは別に、1万分1地形図及び2万5千分1地形図の表示事項の一部に、現況との顕著な相違が生じた場合に、応急的に修正する測量。

[要部修正]

5万分1以下の縮尺の地図の部分修正。

[編集]

2万5千分1地形図とその他の資料を用いて、道路・家屋・等高線等の表示事項を取捨選択するなどして、5万分1地形図を作成すること。5万分1地形図から20万分1地勢図等を作成する場合も同様。

備考

修正事項等の中から特徴的なものを1～2選んで示した。

20万分1地勢図(紙判6色)2面

図名	地図番号	実施年・種別	備考
八戸	NK-54-18	9年修正	国道454号の指定、国道4号ハナダス281号ハナダスの完成
御前崎	NI-54-33	9年要部修正	国道136号ハナダスの完成、御前崎マリナーズの埋立、フェリーの運行(清水港・下田港間)

○平成10年12月1日刊行

数値地図2500(空間データ基盤) CD-ROM版 1面

図名	備考
新潟	

数値地図25000(地図画像) CD-ROM版 9面

図名	備考
青森, 八戸, 盛岡, 一関, 弘前, 秋田, 新庄, 村上, 長岡	

数値地図25000(行政界・海岸線) CD-ROM版 1面

図名	備考
全国	平成9年版

つくば便り

■人工衛星からみた長江・松花江流域の
水域の変化

国土地理院では、国土の環境を監視するため人工衛星NOAAのAVHRRデータを受信していますが中国で大規模な洪水が発生したため、特に影響の大きかったと思われる地域について、発生前後の経過を継続的に監視するとともに、水域範囲を調査しています。

8月21日に長江(チャンチヤン)流域における水域の拡大状況について発表を行いました。今回は、長江流域および松花江(ソンホワチヤン)流域のその後の状況変化に加え、新たに水域面積を計測し、昨年からの経過と比較してみました。主な状況は次のとおりです。

- (1) 長江中流部に位置する洞庭(トンチン)湖付近の水域面積は、昨年最大時で約2,000km²であったが、今年8月には約4,000km²まで拡大した。その後10月に入って約3,300km²まで減少している。
- (2) 松花江と嫩江(ネンチヤン)合流部付近の水域面積は、昨年最大時で約9,700km²であったが、今年8月末には約16,500km²に達している。その後9月から10月にかけて約11,600km²まで減少している。

なお、計測範囲など詳細については、当院ホームページをご覧ください。

■細密数値情報 首都圏データの提供

国土地理院では、11月上旬から「細密数値情報(10mメッシュ土地利用)」首都圏データの第1時期分(1974年)から第5時期分(1994年)をCD-ROMにより試験提供を始めます。

細密数値情報とは、宅地利用動向調査により得られたほぼ5年間隔の土地利用データです。建設省の宅地政策の基礎資料として活用されてきましたが、今回、一般からの要望に応じて試験提供することにしました。

今回の試験提供により、土地利用の現状を把握できるばかりでなく、過去20年分のデータがそろることになり、土地利用の変化、都市の発展の過程がより正確に把握することができます。

■つくば科学フェスティバル'98へ出展

10月10日と11日の両日、つくばカピオにおいて「つくば科学フェスティバル'98」(同実行委員会主催)が開催され、国土地理院は、「測量と地図の世界をのぞいてみよう」をテーマにした出展を行いました。

当日は、日本の東西南北の最端に位置する島を余色立体図や航空写真などで紹介するとともに最新の測量機器を用いてリアルタイムで位置座標を求める測量体験など、大人から子どもまで、楽しく遊びながら測量や地図に親しんでもらうことができました。

なお、2日間で約8,000人の入場者がありました。

■IGGOS国際シンポジウムに参加

国際測地学協会(IAG)第2セクション「先端の宇宙技術」主催による「統合的全地球測地観測システム(IGGOS)の構築に向けて」と題する国際シンポジウムが、ドイツミュンヘンにおいて10月5日から9日まで開催され、松坂宇宙測地研究室長ほか2名が出席しました。

このシンポジウムでは、測地学研究の中心として、先端的な宇宙測地技術と多様な地上観測技術を統合した観測・解析システムを構築することをテーマとし、29カ国約130名の研究者が集い議論が行われました。測地基準系、宇宙測地技術のレビュー、重力場観測衛星計画、IGGOSの地球科学への応用の4テーマについて講演とポスター発表が行われました。測地基準系のテーマの中では黒石宇宙測地研究室主任研究員が「全地球ジオイドに対する日本の標高基準面の偏差」大木測地第二課長補佐が「宇宙測地技術を用いた新しい日本測地系の構築」について発表しました。

また、今後の国際測地学のあり方として、IGGOSを核として、事業(サービス)の明確化を検討し、その実施のために有効な形態へIAGの機構を改革すべきであるとの議論が展開され、理事会へ提言することが確認されました。

■国際古地図学会第17回国際シンポジウム
見学会開かれる

国際古地図研究協会主催の第17回国際シンポジウムが、10月3日から6日まで東京で開催されました。期間中の10月5日には、世界各国のシンポジウム参加者約100名が国土地理院を訪れました。

当日は、地図と測量の科学館において「地図を作って129年—国土地理院の過去・現在・未来」と題して野々村国土地理院長の講演が行われた後、企画展「近代地図の黎明から完成まで」を見学されました。また、本館講堂において開かれた古地図特別鑑賞会では民間で作られた地図を中心に江戸後期から大正期までの国土地理院が保有する数々の古地図を鑑賞されました。

編集 発行	国土地理院ニュースレター編集委員会 建設省国土地理院企画部 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 TEL 0298-64-1111 FAX 0298-64-1658 連絡先:企画調整課 研究調整係(テクノニュース) 情報管理課 生産管理係(マップニュース) 国土地理院ホームページのURL http://www.gsi-mc.go.jp/
----------	--

このニュースレターは、再生紙を使用しています。